

Ⅲ 今後のあり方について

区民行政評価委員会においては、事務事業についての改善意見のみならず、委員会自体の運営のあり方や評価制度の運用についても、積極的に議論を行った。今後の区民評価委員会の運営や行政評価システムの運用に当たっては、以下の委員会意見を参考にして改革・改善を期待する。

1. 次年度の委員会運営等への意見・要望

(1) 委員会運営について

■ 委員会運営事務・日程設定について

- 時間不足は否めなかったが、そうした中で、現在の運営方法は効率的である。毎週開催は非常に厳しいスケジュールだが、前回の議論を記憶しているという点では良い面もある。運営のさらなる効率化のためには、区側は、論点をより明確に提示するとともに、委員側もまた、主張を端的に述べるなど、双方の努力が必要である。
- 開始時間は、午後の時間帯とし、約3時間（1事業：30分）とした方が良い。
- 開催日数が少ない（委員の方々と直接議論することにより、委員会としての意見をまとめる必要がある。その為には、開催日数が少なすぎる）。
具体例：1回目（委嘱・説明会（含：過去の提案書説明）、2回目（都市計画部）、3回目（都市計画部に関する提言まとめ）、4回目（危機管理担当）、5回目（危機管理担当に関する提言まとめ）、6回目（都市整備部）、7回目（都市整備部に関する提言まとめ）、8回目（総括1）、9回目（総括2 提言）、10回目（予備日）の10回は必要である。
なお、提言まとめ及び総括の委員会は、委員及び事務局のみの委員会である。
- 説明会と第1回会議で内容が重なっていた。第1回会議での説明を簡略化して、行政評価の意義などの共有化を図ったほうが良い。
- 現在の1事業当たりの議論の時間は15分と短い。検討対象事業数を減らす、または、検討時間を増やすことが無理ならば、代表質問者を予め1人決めておくといった方法で、より効率的な議論を促す方法を考えても良い。
- 各委員の意見を集約するためには、事前の準備作業なしの1回の委員会では時間が十分でなく、意見集約が部分的になってしまう。そのため、複数意見をまとめるにあたっては、事務局が事前に意見を集約した上で各委員にフィードバックし、その検討結果を持ち寄って委員会を開催すると良い。

- 有識者の方が3年間同じ方なので人員構成を考えたほうが良いのではないかと（全体として）。例えば、①半分ずつ人員を入れ替える、②各事務事業に精通している有識者に参加してもらう（危機管理や災害に関する専門家など）③理系の有識者で社会システムなどの研究者（事務方が多いのではないかと）、④NPOなどで実績を上げている方。
- 回数としては、問題がないが、毎週開催するには、資料の配布などの時間に余裕がない。また、メールやファックスであらかじめ質問内容を提示しておくことで、資料の用意などできて進行がスムーズに行えるかもしれない。少なくとも1週間ぐらいの合間が必要である。
- 配布される資料が多く、与えられたテーマの得意、不得意によって個人差はあると思うが、自分にとっては準備の時間が相当必要であり、委員会が毎週開催されることは、かなり負担となった。
- 各部課長を交えた議論が一渡り終わったあとに、まとめの作業に入る委員会（今年は8月2日）の前に2週間の余裕を取って、委員がこれまでの議論のまとめを読み込む時間を十分に確保しなければならない。今年はそれがなく委員が戸惑っていた。
- 最終提案書をイメージしながら、委員会の議論を進めるべきである。あまりにも各事業を個別に議論しすぎた為に、最後の提言書をまとめる段階で苦勞することになった。
- 過去の委員会の報告書を皆で議論する場（最終報告書の作成時の意思統一）が必要である。
- 本委員会の最終提案（提言書）がどうなるのか、どう生かされるのかの説明が必要である。

（2）事務事業に関するもの

■ 選定事業数や時間配分について

- 限られた時間の中で多くの検討は無理だと思うので、現行が良い。
- 2時間で6事業だと大抵時間超過していたため、事業数はもう少し減らしても良い。
- 各事業に固執せず、部全体の共通指摘をもう少し議論できる方が良い。このため、各事業を実施した後、部に対する意見を議論し合う時間を設けても良い。
- 選定事業については、まだ途中であったり、評価の難しいタイミングのものもあったため、適当な評価を行えなかった。
- 前回との比較で言えば、絶対時間が少ないため、質疑や意見交換の時間が少なかった。そのため、議論についての論点が少なく、また深め切れなかった。したがって、回数はもう1回意見交換する場があれば良い。
- 区選定事業の理由について、委員長からの補足があったのは良かったが、事務局での論点整理は必要に感じた。
- 委員選定事業は、幅広い項目の中から委員がどのような理由で選んだのかを委員からの発言があっても良い。

■ 委員会での評価対象事業の選定および基準

- 3年で全体の部の事業が選定された。今後の事を考えれば、すべての事業に関して区民評価がなされるのであれば特に問題がない。
- 区選定と委員選定の各事業については、区側の知りたいこと、区民側の聞きたいことが見えて、それぞれ意味があった。
- 区民委員の選定については、日程との調整が必要になることでもあるが、委員として集まり、全員参加の場で選定する時間を設けても良い。
- 選定（サンプリング）の基準を示すことが必要ではないか、また、一定の期間（例えば、3年間）は同じ基準で選定することが、同種の指摘の繰り返しを回避する（作業の効率化を図る）うえで有効である。
- なぜ、その事業が区から選定されたのかについては、区民委員も担当者も共有すべき情報である。評価の目的を明確にする意味でも、この点を簡潔にまとめた資料を添付した方が良い。

■ 事務事業の評価方法について

- 長期に渡る公共事業の場合、毎年評価指標を管理しても意味の無いものがある。必ずしも毎年評価の対象とするべきでない事業については、長期計画に基づき、進捗管理する年度（イベントがある年度など）を事前に設定し、必要な年度のみ評価することを考えても良い。
- 外郭団体が行っている事業の場合は、外郭団体全体の運営の評価をしなければ、その支出が有効かどうかの判断が付かないため、庁内で行う事務事業とは別の枠組みを設置するべきである。

■ 担当部課からの説明について

- 担当者からの説明はとてもわかりやすく感謝しているが、対象事業が複数の事業と関連する場合、対象以外（関連事業）の資料の方が多くなる場合がある。その事業の背景は理解しなければ評価できないので、必要な資料はいただきたいが、やはり対象の事業を中心に把握できる資料を添付してほしい。
- 資料となっている事業内容がわかりにくく、事前に用意した意見が見当違いな事がよくあった。担当課違いということで質問できないこともある。関連課のリストなど用意してもらえると参考になる。
- 区役所の担当者から、①成果が上がっている事業なのか、②必要な区民サービス事業かなど前向きな思考で、普段の仕事の評価や事業の問題、疑問などを提起してほしい。

(3) 区が実施する行政評価制度全体について

■ 指標開発における外部支援・協働の導入

- 適切な指標を開発するには人と時間を要する。指標の開発に専念できる人を何人かつけて、各部課と協議しながら進めるのが一つの方法だが、社会・経済系の大学か大学院と連携して、学生・院生さんにやってもらおうと費用もかからず、引き受ける方も勉強になる。

■ 評価委員会のあり方について

- 行政評価制度は大切な制度である。区の資料を提示してもらい読み解くだけでも大きな意義がある。区側と区民の双方の声を直に聞く事ができる機会をこれからも是非維持してほしい。また、自分以外の委員の方々の御意見や人柄にふれられた事も大きな経験となった。わかりにくいのは当たり前として、遠慮なく意見を述べられる委員会に発展する事を願う。
- 本委員会は、事業の内容を区民とともに検証する委員会で、仕分けや必要性にかかる有無を議論すべき場ではないとの目的であるので、そのような区民目線を大切にする評価作業は重要である。したがって、今後も継続していく事を期待したい。
- 区民の目から見た評価（行政評価）とは、最終的にその事業が区民にとって必要か否かの判断であり、究極的には、事業中止も含めて提言すべきであると感じた。
- 区民委員は「区の（職員が担当する事業について行った）行政評価について区民の目線で気付いたことを指摘する」ことと説明されたが、より明確な定義があると良い。
- 事業（施策）単位で「区の（職員が行った）行政評価について区民の目線で気付いたことを指摘する」ことの意義は認められるが、部分調和に留まり、また、全体最適化の視点が欠けることにもなり、制度の限界かも知れない。

2. 事務事業評価シートに関する意見・要望

■ 事務事業評価シート等の記載についての全般的事項

- 事業内容に関する資料と「事前準備シート」とが対応していると読み取りや理解が容易になる。
- 担当者は、2から3年で配置転換されているのであれば、申し送り事項などで、改善策、指標に関する問題提起など感じることもあると思われるので、そのような内容が記載されていれば事業内容の難しさなどが伝わってくる。
- 資料や各種シートは、前年に比べ改善が施され、分かりやすくなった。しかし、事業単体ではなく、区画整理、バス路線や公社などのように、母体を設置した背景や事業決定に至った政治的な意味などを示さないと、その事業の適正性が見えない場合があった。その意味では、母体や事業背景を説明する資料がほしかった。
- 記入する時の手間を考えると、事前準備シートは現行のような簡潔なものにならざるを得ない。添付する事業概要説明で記入の不足分の補足をすれば良い（現行は事業内容の説明のみ）。
- 長期に渡る公共事業、外郭団体事業（補助金等）については、現状の評価シートでは対応できていない。
- 事業内容については、目標の立て方が「どのような状態にしたいのか」という記述のある資料が少なく、事業内容と見比べることができなかった。また、見慣れていないせいか、シートが見にくかった。

■ 事務事業評価シートの記載における要望：事務事業の説明

- 「事業開始からこれまでの経過」に、事業（施策）が導入された背景・経緯、変遷が記述されていると、事業に対する理解が深まる。

■ 事務事業評価シートの記載における要望：指標

- 指標については、各部署でどのようにとったら良いのか迷いがあるように感じられた。
- 実績を表す指標が必ず問題視されていることを考えれば、2番目に位置を変更させ、意識を向上させると良い。

■ 事務事業評価シートの記載における要望：コスト

- 「予算・決算状況」で、前年度比で大きく変化している場合（例えば、前年度比で20%を超えて増減する場合など）、その理由について、説明を付すことを義務付けるべきである。

■ 事務事業評価シートの記載における要望：総合評価

- 総合評価（課長評価）の「改善・効率化・見直しの方向性」欄で記述している事項については、全て、目標としている時期（具体的には、「〇〇年度実施、〇〇年度までに実施」等）を記述すべきである。期限を明記することが必要である。

■ 事務事業評価シートへの追加情報

- 区の職員が担当する事業について行った行政評価のプロセス、評価基準（特に「視点別の評価」）が説明または示されることを望む。

3. 各委員の感想 ～委員会に参加して～

岸本 哲也

この委員会がめざすのは、事業の可否を直接に議論するのではなく、担当部課による内部評価を改善することで区政を良くすることです。区民が参加すると、苦情や陳情に傾くことが多いのですが、区民委員の方は趣旨をよく理解して議論して頂きました。これに加えて、担当部課長さんが、事業についての弁明に傾かず、事業をするうえで感じておられる問題点を区民委員に投げかけるという形が出てくれば、実りがさらに多くなると思います。

鏡 諭

昨年に引き続き委員会に参加させてもらったが、まず公募区民の皆さんの見識の高さに驚かされました。事前にインターネットから必要な情報を取得し、必要があれば自ら現場に足を運び、意見を述べるなどの姿勢には、頭の下がる思いでした。あわせて、区職員に対しても信頼感があり、区行政と区民の関係は、良い関係が維持されていると感じました。このような区行政の透明性を担保する場は貴重なので、委員会が引き続き開催される事を期待しています。

佐々木 陽一

今年度分で全部局の外部評価を終える。その総括が必要であろう。総括の重要な論点の1つは、事務事業の評価指標の妥当性だ。残念ながら、過去の評価結果が次年度の内部評価に活かされた形跡は薄かった。評価指標の設定目的や意義について、行政が区民に対して適切に説明できないのは困るが、その原因が評価システム自体の構造にあるならば、それを改善しなければならない。区民参加で指標を設定する工夫も考えて良いのではないか。

前田 泰宏

私が委員を担当させて頂いてから今年度で3年目となりました。初年度から事務事業評価シートにおける「事業の目的・手段」「実績を表す指標と実績値」などの記載内容が実際の事業内容を正確に反映していない点について報告書の中で提言していますが、今年度もいくつかの事務事業評価で実際の事業内容を表さない記載や指標設定がされていました。

すべての事務事業評価を委員会で議論することは難しいため、代表的な提言については、議論の対象となっていない事務事業の御担当者にも理解して頂き、区全体として改善を図ることを進めることを願っています。

稲泉 八千代

今回、このような委員会に参加する機会をいただいたことにお礼を申し上げます。

日ごろから、区との協働ということに関心があり、また取り組んでいるところですが、「事務事業評価一覧表」を読むことで、事業全体を俯瞰してみることができたことは、大きな収穫でした。個別の評価に関しては、議論のかみ合わない場面もあり、行政用語というか独特の言い回しに理解が追い付かない感があり、相互理解を深めてより良い区政を実現するために、このような場の重要性を改めて認識しました。

大垣 昌之

3回の行政評価委員会の中で、区民参加委員の人数が適正であったためか、よくスケジューリングされたためか、よくわからないがテンポよく評価できたと思います。しかし、全ての事務事業が終わるまでには、同じ要領では、年数がかかると考えられますので違う方法を御検討願いたい。(例：適正な指標か？だけでもすべての事務事業をチェックする)

大嶋 龍男

今回、初めての参加でした。当初より、区民の目から見た墨田区行政の評価は重要だと思っておりました。しかし、具体的な評価となると難しいことが多いことを痛切に感じました。墨田区の事業が多種多様で多いこと、その事業の目的・経緯を理解していないと十分な評価が出来ないと感じました。

しかし、今回の限られた時間の中で、私なりに評価してきたと感じております。次回の委員会も参加したいと思っておりますし、今後とも墨田区全体から見て、墨田区行政を評価したいと思っております。

小池 一步

日頃、行政の現場で活動されている職員のみなさんの行政評価に対し、準備シート、説明と補足資料に基づいて指摘することは、非常に難しいと感じました。また、不遜とも思いましたが、与えられた材料を読み込み気付いた点を発言する機会を与えられたことに感謝したいと思います。

長瀬 純治

今回評価対象となった事業は、どれも「街づくり」に関わる内容で、私も区民として率直な意見を出すことができました。私は、昨年度に続き二度目の参加です。評価シートの内容は都度改善され、質は上がっているものの、残念ながらシートの目的に対する内部的な理解不足が見受けられました。また、全体的な時間不足も否めず、改善すべき課題もあると感じます。今後はこの仕組みをさらに発展させ、全ての事業が、区民から身近に感じられるようになることを期待します。

野本 郁榮

区民行政評価とは何か。何も知らぬまま、墨田を愛する区民であれば条件は適っているものと思い応募し、評価委員に選んで頂きました。慣れない資料の解読から始まった行政評価に戸惑いもあり、短い時間の中で十分な議論ができたわけではありませんが、今回の委員会での意見が区政に活かされ、区民の為の行政に役立つことを願っております。尚、専門家委員及び他の評価委員の方々の知識の豊さと墨田への想いの深さに触れることができ、大変良い経験をさせていただきました。これからも更に区民に開かれた行政評価委員会の実施を期待しております。